



平成28年度版

あおもりの 野菜つこ



あおもりの野菜は、
豊かな自然と
きまじめな生産者が育てた
安全・安心な野菜です。



発行：青森県農林水産部農産園芸課
TEL：017-734-9481
E-mail：noen@pref.aomori.lg.jp

青森県には世界に誇れる豊富な農林水産資源と、それを支える「きれいな水」や「健康な土」などの恵まれた生産基盤、さらには若い元気のある「人財」が育っているという強みがあり、これらを最大限に発揮する施策を展開していくことで、農林水産業の「成長産業化」をめざしています。

あおもりの野菜は、自然豊かな環境のもとで、生産者が「こだわり」をもって「正直にまじめに」育てた自信をもっておすすめできる「健康野菜」です。

目次



青森県の主要野菜

ながいも	・・・	2	きゅうり	・・・	24
にんにく	・・・	4	ピーマン	・・・	26
ごぼう	・・・	6	いちご	・・・	28
だいこん	・・・	8	えだまめ	・・・	30
にんじん	・・・	10	さやいんげん	・・・	32
ばれいしょ	・・・	12	ねぎ	・・・	34
こかぶ	・・・	14	キャベツ	・・・	36
トマト	・・・	16	レタス	・・・	38
ミニトマト	・・・	18	ほうれんそう	・・・	40
メロン	・・・	20	ブロッコリー	・・・	42
すいか	・・・	22			

青森の伝統野菜	・・・	44
まだまだあるぞ！あおもり野菜	・・・	46
青森県産野菜の生産と流通	・・・	47
付表	・・・	50
旬のカレンダー	・・・	55
日本一健康な土づくり推進運動	・・・	56
青森県の冬の農業の取組み	・・・	58

作付面積日本一、出荷量全国2位
名実ともに青森県産野菜のエース

ながいも



青森県のながいもは、作付面積日本一で出荷量全国2位、国内出荷量の約4割を占めています。

品種は、在来種「ガンクミジカ」に由来する首が短く肉付きの良い系統や品種が普及しており、色白で粘りが強くアクが少ないのが特徴で、品質が良いながいもとして全国の市場から高い評価を得ています。

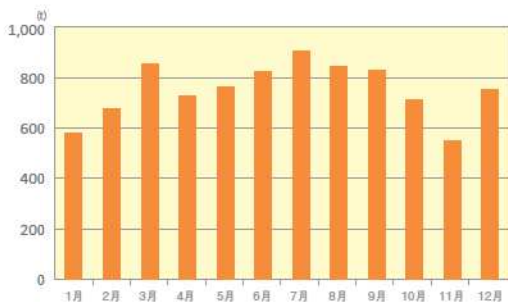
5月に植え付けが始まり、11～12月（秋掘り）と越冬後の3～4月（春掘り）の年2回収穫されます。

各産地には、低温貯蔵庫が整備され、年間を通じて全国に出荷されているほか、近年はアメリカにも輸出されています。

全国の生産状況 (H27)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	51,600	1,880
2	青森	50,400	2,250
3	長野	5,540	310
4	岩手	2,930	197
5	茨城	2,450	121
	全国	116,600	5,200

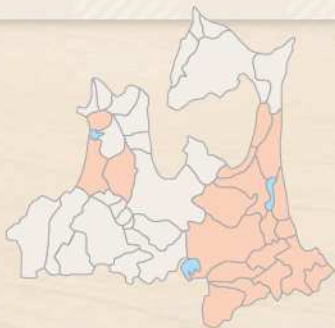
県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業 露地普通	越冬		春収穫		植付け	栽培管理 (ネット張り、除草、追肥、病害虫防除など)					秋収穫	貯蔵
出荷時期 (旬の時期)	[Red shaded area indicating shipping season from 1月 to 12月]											

主な産地

- 三八●八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、
新郷村、階上町
西北●五所川原市、つがる市
上北●十和田市、七戸町、東北町、六ヶ所村、
横浜町、三沢市、六戸町、野辺地町、
おいらせ町



産地レポート

J A 八戸

県内有数の産地

J A 八戸のながいも専門部は部会員が404名、作付面積が248haで県内有数の産地となっています。

J A 八戸では、緑肥作物導入マニュアルを作成し、緑肥作物を導入した輪作体系を進めることで生産性の高い土づくりを実践し、おいしくて安全ながいもづくりが自慢の産地です。



ながいも専門部長上野齊氏

平成25年には全国でもトップクラスの規模を誇るながいも洗浄選別・貯蔵施設が完成。1日最大25.5tのながいもを処理できる安定した出荷体制の確立により、首都圏、関西、九州方面等全国に向け周年出荷が行われています。

品質・収量向上への積極的な取組

品質の良いながいもを多く生産する基本はなんと言っても優良な種苗を使うこと。そのため、J A では種苗増殖ほを設置し、厳正な栽培管理やウイルス病のチェックを経た優良な種苗の増殖と生産者への供給が行われています。

また、生産者と協力しながらJ A 独自の系統比較試験や高支柱などの新技術実証試験を実施するなど、消費者の皆さんに喜んで食べてもらえるよう、さらなる品質・収量の向上に向けた弛まぬ努力が続けられています。



採種現地検討会

【topic】

各産地共通
の

「取組」

「若手育成塾」開設による若手農業者への技術の伝承

平成24年度から、各産地の農協単位に若手農業者を対象とする若手育成塾が開設され、地域で高い技術を持ったながいも生産の「達人」を講師に、座学や現地研修が行われてい

ます。現在、全県（5地域）で152名の塾生が日夜研鑽を積んでおり、将来の産地を牽引する担い手として活躍することが期待されています。

県目標の単収3.6tをクリアできるよう頑張ります！



十和田おいらせ塾生
寺澤祐介さん

国産の7割を占める日本一の産地
大きさ、雪のような白さ、
品質の良さが自慢！

にんにく



青森県のにんにくは、日本一の生産を誇り、国内出荷量の約7割を占めています。栽培品種は、本県の気候に適した「福地ホワイト」が使用されており、その栽培は昭和37年から田子町で本格的に始まり、その後、水田転換政策により昭和40年代後半から全県に拡大しました。

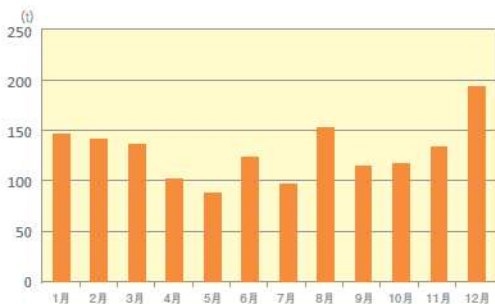
福地ホワイトは、県外産に比べ、大玉の6片種で、1片が大きく、実がよく締まり、雪のように白いことから、市場等で高い評価を得ています。

6～7月に収穫されたにんにくは、乾燥後冷蔵庫で保管され、1年を通じて安定して出荷されています。

全国の生産状況 (H27)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	9,980	1,350
2	香川	580	95
3	宮崎	467	70
4	北海道	460	92
5	大分	213	45
	全国	14,300	2,330

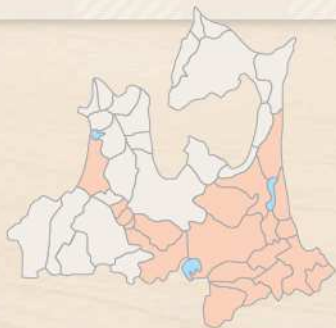
県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



項目/月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業	露地 マルチ	越冬			栽培管理 (芽がき どうみ)	生育期	肥大期	収穫 乾燥		植付け	萌芽		越冬
	出荷時期 (旬の時期)	-											

主な産地

- 中南●平川市、黒石市、藤崎町、田舎館村
 三八●八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、
 新郷村、階上町
 西北●つがる市、板柳町
 上北●十和田市、七戸町、東北町、六ヶ所村、
 三沢市、六戸町、おいらせ町



産地レポート

JAゆうき青森にんにく部会

国内一のにんにく産地

JAの主な産地は、野菜づくりが盛んな上北地域です。その中でもJAゆうき青森管内の作付面積はH27年産で204.7ha（種子面積含む）、出荷数量は1,310tで、県内トップクラスの生産量を誇り、食後のにおいが気になる「MILD229（マイルドにんにく）」や「新黒にんにく愛ちゃん」など、独自の商品を作っています。

部会では、北海道への新興産地視察による新しい産地の動きを研修するなど他県産地の動きにも注目しながら生産販売に取り組んでいます。また、新たな加工需要の掘り起こしにも取り組んでおり、加工取扱業者等への視察も実施しております。

にんにくは、9月中旬～10月中旬に種となるりん片を植え付け、翌年6月下旬～7月上旬に収穫します。極寒の中でじっくり育つため、辛みが少なく甘みのある味わいとなっています。



ゆうきの里ギフト



中野にんにく部会長

販売への取組

出荷先は、7～8割が関東方面で、他に大阪、名古屋、九州となっています。多方面からの引き合いが強く、市場出荷は元より、契約販売やインターネット販売等を取り入れた販売方法にも力を入れています。

また、高付加価値化を目指し、マイルドにんにくや新黒にんにく愛ちゃんなどの商品開発にも取り組み、有利販売に努めています。

徹底した土づくりのこだわり

JAにんにく部会はエコファーマー認証システムを設定し、徹底した土壌づくりによっておいしくて安全なにんにくを作っています。平成29年現在で部会員は242名、栽培面積は195.6ha（種子面積含む）。関東地方をはじめ日本全国に出荷されています。

生産量日本一！
健康志向の高まりでますます
注目されています。

ごぼう



青森県のごぼうは、日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。産地は、太平洋側、夏に「ヤマセ」とよばれる冷たい風が吹く上北地域に集中しており、同じ根菜類のながいもの輪作作物として、また健康野菜として注目されていることなどから、近年、生産が拡大しています。

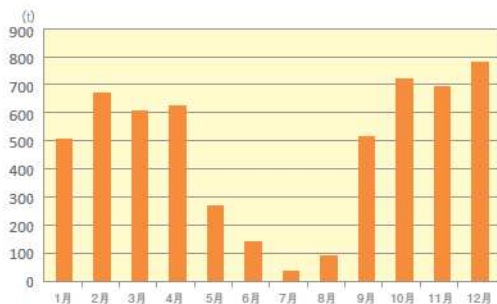
4～6月に種をまき、9～11月に収穫されたごぼうは冷蔵庫で保管され、ほぼ一年中、安定的に供給されています。

日本一の出荷量を誇る青森県のごぼうは、香りや風味が良く、繊維質が邪魔にならない程度に身が締まり、シャキシャキとした食感が特徴で、高品質なごぼうとして市場から評価を得ています。

全国の生産状況 (H27)

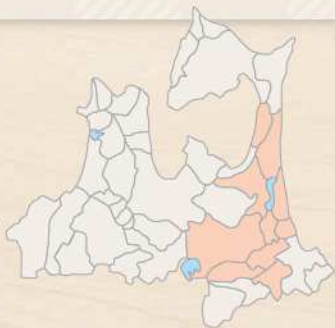
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	49,100	2,320
2	茨城	16,500	904
3	北海道	15,000	669
4	宮崎	10,100	647
5	群馬	7,350	466
	全国	131,100	8,000

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

三八●五戸町、新郷村、南部町
 上北●十和田市、東北町、横浜町、三沢市、六戸町、
 おいらせ町、六ヶ所村



産地レポート

JAおいらせ やさい推進委員会ごぼう部会

日本一の産地として

地域の主力品目であるながいもの輪作作物として導入されたごぼうは、収穫作業の機械化や長期安定出荷が可能となる貯蔵施設の整備により年々作付面積が拡大し、平成27年度の作付面積は460ha、販売額は12.6億円となっています。

平成23年からGAP手法を導入し、生産から出荷において安全・安心の確保に努めています。

日本一の産地としての誇りと責任を胸に、おいしいごぼうづくりに取り組んでいます。



加工品開発で地域を元気に

地元の企業や生産者グループが中心となって、お菓子やごぼう茶など多くの加工品が作られ、農家の所得向上につながっています。地元高校生によるごぼうアイスの開発も行われるなど、ごぼうは地域に強く結び付き、地域を元気にしています。

県産ごぼうを全国へ!

「生産者は生産・出荷で終わりではなく、食べ方まで提案しなければ」と語るのはJAおいらせやさい推進委員会三沢地区ごぼう部会長の織笠光子さん。保存方法やおいしいごぼうの食べ方を教えてくださいました。

ごぼうの一大産地ということで全国規模のテレビ取材を受けることも多く、取材を通じてどんどん人脈が広がり、お付き合いが始まることも多いといいます。

「自分たちが生産するごぼうをより多くの人に食べてもらいたい。」と元気に前向きに取り組む織笠さんの人柄が、どんどん人を惹きつけ、産地を元気にしていると感じました。



春・夏・秋と本県の気候と地形を
生かして生産、出荷量は全国3位

だいこん



青森県のだいこんは、県内の野菜生産で最も作付面積と出荷量が多い野菜で、主な出荷時期は5～11月です。

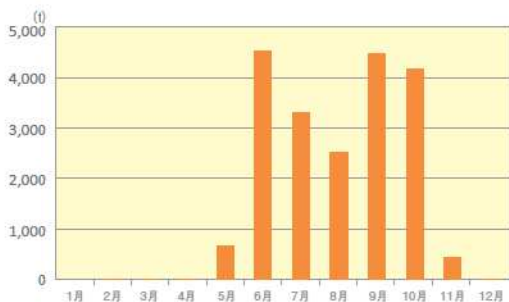
県内の生産は、上北地域（三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）、中北地域（平川市、黒石市）、三八地域（新郷村）、下北地域（むつ市）等が主な産地で、県内の各地で産地を形成しています。

だいこんは、夏季涼やかな気候を好むため、春先の栽培では強い低温による食用部分の生育停滞を防ぐトンネル栽培や、夏場は涼しい高冷地などで栽培を行うなど、栽培する時期や場所によって品種や作型を変えるなどの工夫により品質の良いだいこん生産を行っています。

全国の生産状況 (H27)

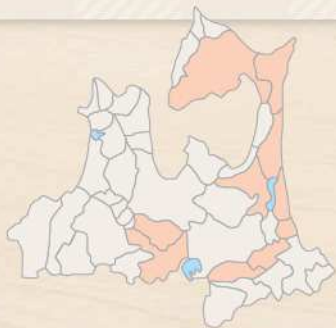
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	164,900	3,500
2	千葉	142,300	2,860
3	青森	120,400	3,060
4	鹿児島	85,800	2,050
5	神奈川	84,500	1,150
	全国	1,161,000	32,900

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

- 春 ● 三沢市
夏 ● 平川市、黒石市、五戸町、新郷村、東北町、
六ヶ所村、三沢市、おいらせ町、むつ市、
東通村
秋冬 ● おいらせ町



産地レポート

JA十和田おいらせ ももいし支店

産地情報

JA十和田おいらせのだいこんは、おいらせ町を中心に産地化しており、県内一の大産地を形成しています。特においらせ町のももいし支店管内のだいこんは春夏～秋まで生産出荷が行われており、だいこんの作付面積は145ha、生産者数は86人となっています。

近年、キャベツからだいこんに作付を変更し、収穫出荷を農協に委託する農家も増えています。JAでは、大根収穫機と人力による収穫機を組み合わせ作業を進め、農家の要望に応えるようにしています。

生産の特徴的な取組

夏季冷涼な気候を生かし、肥料・農薬を極力減らした栽培方法で、水分が多く、甘みが強いのが特徴です。堆肥を活用した土づくりによる安定生産、消費者に好まれる（安全、安心、安定供給）新鮮で高品質なだいこんの生産に取り組んでいます。

流通の特徴的な取組

生産者と協力して県内唯一の葉付だいこんの出荷に取り組んでいます。葉付で出荷するには、鮮度と適期防除が重要で、生育に合わせた管理を徹底しています。これからも新鮮で安全・安心なだいこんの生産・出荷に取り組んでいくこととしています。



大根収穫機による収穫作業



JA洗浄選果施設での共同出荷



生産者と協力して葉付だいこん出荷

全国4位の出荷量
7月が出荷ピーク

にんじん



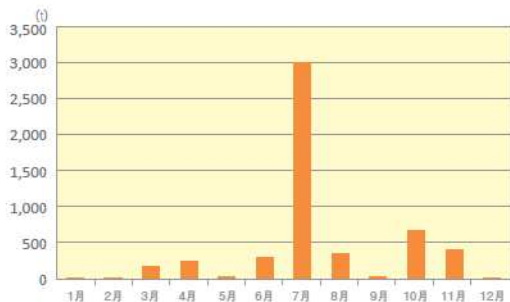
青森県のにんじんは、柔らかくて甘みがあり、保存性の高さにも定評があります。

県内の主な産地はおいらせ町、三沢市、六戸町、東北町で、関東の出荷が終わり北海道の出荷が本格化する前の7月が出荷のピークとなっています。

全国の生産状況 (H27)

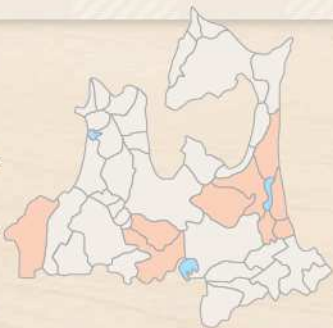
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	175,600	4,820
2	千葉	109,900	3,150
3	徳島	47,100	1,020
4	青森	36,200	1,240
5	長崎	28,700	863
	全国	563,000	18,100

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

- 春夏 ● 七戸町、東北町、六ヶ所村、三沢市、六戸町、
おいらせ町
- 秋 ● 平川市、黒石市、七戸町、東北町、六ヶ所村、
おいらせ町
- 冬 ● おいらせ町、深浦町



産地レポート

深浦町 ^{へなし} 船作興農組合

ブランド雪下にんじん「ふかうら雪人参」の栽培
深浦町船作興農組合では、約50haのほ場で
秋に収穫できるにんじんをそのまま土の中で眠
らせて、雪が積もり始める12～3月の冬期間に、
雪をかき分けて一本一本手作業で収穫する雪下
にんじんを栽培しています。



このように、にんじんを冬の寒さに当ててか
ら収穫することによって、甘みや栄養価が増えて
フルーティーな味わいとなり、「ふかうら雪人参」としてブランド化されています。

こだわりの土づくり

「ふかうら雪人参」を生産する農場では、甘くて美味しいにんじんを生産するため、町の土壌検査施設で継続的に土壌分析を行い、土壌の状況把握に努めているほか、有機質肥料を主体に緑肥作物を組み入れた輪作を行うなどにより、土壌病害虫の軽減や雑草の生育を抑えるなど、健康な土づくりに積極的に取り組んでいます。



北海道・長崎の2大産地の端境期を
ねらった中堅産地、7～8月中旬にも出荷

ばれいしょ



ばれいしょは、全国的には秋から北海道、春には長崎県からの出荷が多く、青森県はこれら産地の端境期から出荷し、主な出荷時期は7～9月です。また、主な産地は、横浜町、三沢市、東北町、六ヶ所村などで、太平洋側で栽培が盛んです。

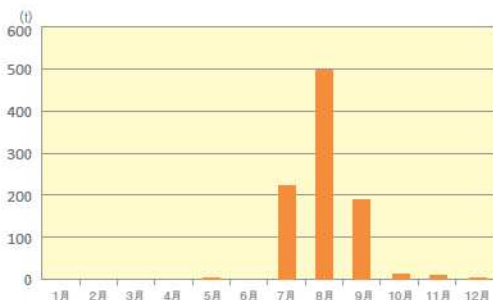
品種は、煮崩れの少ないメイクインが多く作付けされています。

変わったところでは、大間町の奥戸（おこっぺ）地区で主に栽培されることからその名が付いた「オコっぺいも」があります。皮色が黄色、形が偏卵形の大きないもで、煮えやすく肉質はホクホク系で皮ごとふかすと皮がぷちんと弾け、ほっこりした食感は男爵いものそれと似ていますが、さらにサラサラしているのが特徴です。

全国の生産状況 (H27)

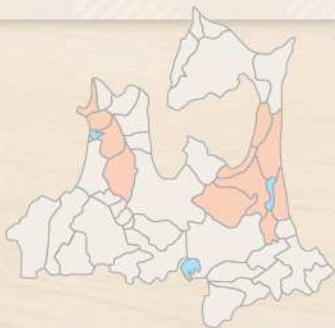
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	1,698,000	51,000
2	長崎	80,800	3,810
3	鹿児島	68,300	4,260
4	茨城	37,500	1,520
5	千葉	22,500	1,240
6	青森	13,000	803
	全国	2,006,000	77,400

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

西北●五所川原市、中泊町
 上北●七戸町、東北町、六ヶ所村、横浜町、三沢市、
 六戸町、野辺地町



産地レポート

株式会社 黄金崎農場 (岩木山農場)

栽培期間が短く後作の導入ができるなど、
 経営に有利

ばれいしょは、冷涼な気候を好み、年による豊凶の差が小さく、栽培期間が3~4ヶ月と短期間で後作の導入ができ、経営に有利な品目です。黄金崎農場では、昭和52年から加工用ばれいしょの作付けを開始し、今では40品種に及ぶ多種多様な品種を取り扱っています。

黄金崎農場の役員は9名で、ばれいしょの栽培面積は約124haとなっており、チップ加工を主に、コロッケ、サラダ等の多岐に及ぶ販売を行っています。



佐々木代表取締役

テイस्टィングポテト～白神・岩木山麓の大地の恵み～

テイस्टィングポテトとは、多種多様な品種を箱詰めし、料理の用途に応じた品種を選んでいただくことで、ばれいしょの世界を消費者に広めようと商品化した製品です。色鮮やかに並ぶばれいしょは、味・見た目ともに飽きることなく楽しめます。

ばれいしょは品種がたくさんあって本当に面白い!

最も注目されている「デストロイヤー」

でんぷんがあまり含まれていないため、柔らかくて甘く、滑らかな食感をしており、だしのしみこみが非常に良いため、煮物等に非常に適した品種です。

収量性も良く、施肥量も少なく済むため、消費者・生産者から最も注目されています。



太平洋からの冷たい風が吹き付ける
ヤマセ地帯は、夏場のこかぶ栽培に
最適で出荷量は全国3位！

こかぶ



かぶには聖護院かぶ、天王寺かぶなどの大型のかぶ、日野菜かぶ、赤かぶなど主に漬け物に用いるかぶなど、大きさや用途によって多くの種類がありますが、青森県の主力はこかぶです。

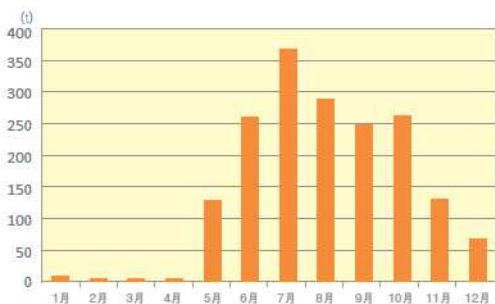
夏場でも涼しい気候の中で生産される本県のこかぶは、皮が薄く色白で、鮮度がよいと好評を得ています。

皮をむいて生で食すと、梨のようなみずみずしさと食感、ほのかな甘みが感じられます。

全国の生産状況 (H27)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	33,200	963
2	埼玉	14,600	464
3	青森	7,340	205
4	京都	4,680	164
5	滋賀	4,560	209
	全国	108,400	4,630

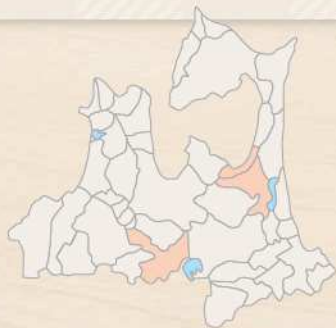
県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

中南●平川市

上北●東北町、野辺地町



産地レポート

JAゆうき青森

産地形成の歴史

野辺地町は、ヤマセの影響により、夏季に低温・低日照となりやすい上に、耕地面積も少ないことから、農業振興のためには収益性が高く、しかも女性や高齢者が生産に参画しやすい軽量野菜の取組が必要でした。そこで、野菜品目を模索し、昭和58年からこかぶ栽培への取組が始まりました。



生産・栽培上の特色

商品力の強化策として、周辺地域に多い畜産農家で生産される完熟堆肥の投入や、緑肥による健康な土づくりと、被覆資材を活用した農薬節減を基本とした栽培基準を作成し、安全・安心な葉つきこかぶの生産を進めています。さらに、生産コストの低減と栽培技術の向上を図るため、定期的に現地指導や情報交換を行い、全国に誇れる品質の確保に日々努めた結果、みずみずしさあふれる高品質なこかぶ生産を実現しました。



出荷の工夫・販売戦略

品質の低下を極力抑えるよう、収穫は気温の低い夜明け前から行われます。収穫後の品質保持のため、各農家では洗浄機によるスピーディな洗浄、調製作業が行われ出荷されます。農協では冷蔵施設や真空予冷施設を計画的に整備し、とれたてのおいしさを食卓に届ける取組が行われています。これら徹底した品質管理によって、市場では「夏場の品質日本一」

と非常に高い評価を得て、他産地に比べ高い価格で取引されています。

平成19年11月に、地域ブランド化推進の取組として「偏東風と大地の恵み野辺地葉つきこかぶ」が商標登録され、平成24年8月には「野辺地葉つきこかぶ」の名称で地域団体商標に登録されたことから、野辺地町の特産品として更なるブランド化が期待されています。

東京都中央卸売市場の8、9月入荷の トマトは、5個に1個が青森県産

ト マ ト



青森県のトマト生産は、昭和51年から本格的な栽培が始まりました。平成27年度の全国生産状況では出荷量で全国13位となっています。

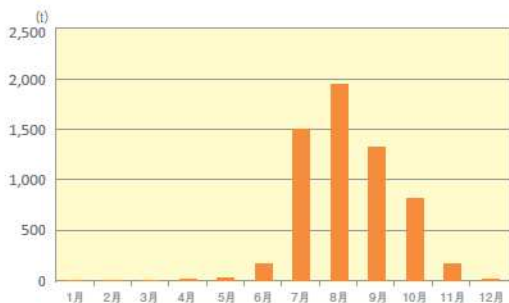
夏場の生産が中心で、夏秋トマト（7～11月）の出荷量は全国7位で、特に東京都中央卸売市場への出荷が多く、8～9月はシェア1位、5個に1個が青森県産です。昼夜の気温差が大きい青森県で生産されるトマトは、味が良く、日持ちの良さにも定評があります。

県内の生産は、東青地域（青森市、蓬田村）、中南地域（弘前市、平川市、黒石市）、三八地域（南部町、三戸町）、西北地域（五所川原市、つがる市）、上北地域（七戸町）等が主な産地で、県内の各地で産地を形成しています。

全国の生産状況 (H27)

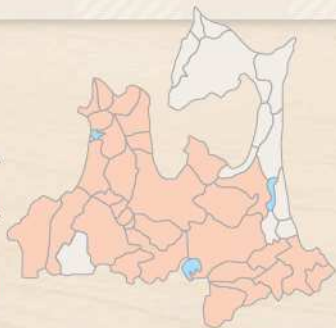
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	122,100	1,250
2	北海道	56,700	879
3	茨城	44,100	937
4	千葉	38,800	826
5	愛知	38,200	511
13	青森	15,700	386
	全国	653,400	12,100

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋 ● 青森市、外ヶ浜町、平内町、今別町、蓬田村、弘前市、平川市、黒石市、大鰐町、藤崎町、田舎館村、八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、新郷村、階上町、深浦町、五所川原市、鱈ヶ沢町、つがる市、中泊町、鶴田町、板柳町、十和田市、七戸町、東北町
冬春 ● 南部町、三戸町



産地レポート

JAつがる弘前特別栽培トマト部会

産地の概況

生産の中心、弘前市清野袋地域は、岩木川沿いの沖積土地帯に位置し、水はけが良いことから病気の発生が少ないという好条件に恵まれています。

環境に配慮した「おいしいトマト」栽培

安全・安心なトマト生産のため、通常の栽培と比較して農薬5割以下、化学肥料5割以下での栽培により平成12年から青森県特別栽培農産物認証を取得しています。

病害虫の発生状況に常に注意しながら効果的な防除を心掛けており、機械や手取りによる除草などにより、農薬使用回数を少なくしています。



販売状況と産地づくり

「生産者それぞれが自分の好きな品種を工夫しながら生産している。これからどんどん若い生産者が増えてくれれば。」と語るのは部会長の佐藤耕一さん。農業経営士としても野菜産地の育成に尽力しています。

首都圏を中心に販売されており、その際、繰り返し使用できるリターナブルコンテナによる出荷を実施しています。また、東北や関西圏へ販路を拡大するなど、環境への配慮や市場・消費者ニーズに対応した産地づくりに努めています。



人気上昇中！
他産地に左右されない
安定出荷がカギ

ミニトマト

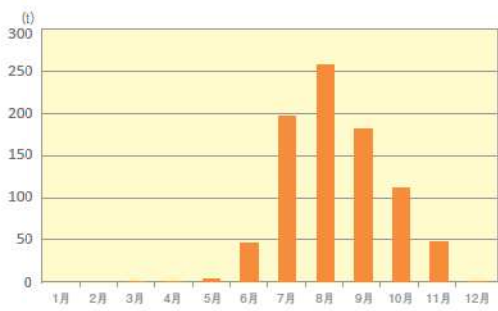
ミニトマトは近年、サラダの付け合わせなどに多く利用されるようになり、消費が急増、さらに近年の高値販売や高齢化により大玉からの切り替えが進むなど、全国的に作付面積が増加しています。

青森県では、転作田への作付や技術面の取り組みやすさから生産が拡大しており、東青地域（青森市）、中南地域（平川市・大鰐町・田舎館村）、三八地域（八戸市）、西北地域（つがる市）が主な産地となっています。

全国の生産状況 (H27)

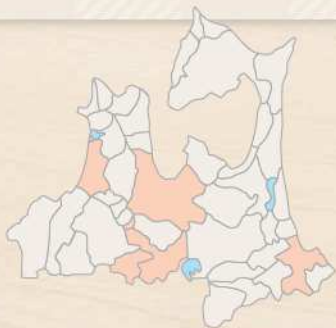
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	29,300	394
2	北海道	13,000	284
3	愛知	11,200	139
4	宮崎	7,110	102
5	福島	6,730	95
15	青森	1,980	48
	全国	121,100	2,320

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

- 東青●青森市
- 中南●平川市、大鰐町、田舎館村
- 三八●八戸市
- 西北●つがる市



産地レポート

中南地域

産地はJA津軽みらいとJAつがる弘前が管轄するりんごや米づくりがさかんな中南地域です。主に関東、東海地方へ出荷されています。平成27年の管内農協部会員は139名、栽培面積は14haとなっています。

安定した需要に加え、高まるカラートマトの人気により、赤系品種のサンチェリーピュアを主体に、黄色系品種のイエローミニなどのさまざまな品種のカラーミニトマトも作られています。



伸び盛り産地

ミニトマトは技術的にも比較的作りやすく軽量なことから、新たに農業に取り組む方や年配の生産者でも取り組みやすい作物です。また、もともとりんごや米づくりが中心の産地ということもあり、転作やりんごなどの複合経営として取り組む生産者が増え、年々栽培が拡大しているまさに伸び盛り産地です。



技術を次世代へ

「産地の生産者は産地が育てていかなければいけない。」と語るのはJA津軽みらいミニトマト部会長の小山内悟さん。

自身は水稲30a、りんご50aのほか、平成20年からミニトマト520坪の栽培に取り組んでおり、ミニトマトのベテラン生産者の一人として若手生産者の生産技術や経営についての相談役を担っています。

「新たに農業・ミニトマトに取り組む方は不安が大きいかもしれないが、県やJA等の指導機関はもちろん、生産者同士で相談しあえるようなコミュニティを作りたい。」と、将来の産地発展を見据えて意欲的に取り組んでいます。

メロンの出荷量は全国5位 値頃感と高い糖度がセールスポイント

メロ ン



青森県のメロンは、ほとんどが雨除けトンネルで栽培され、ネット系メロンを中心に、白皮品種、黄皮系品種を組み合わせるバランスのとれた栽培を行っています。

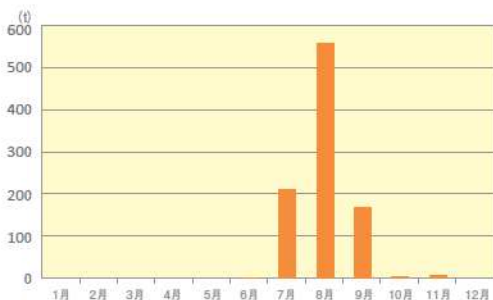
出荷量は全国5位と上位に位置しています。出荷先は東海・近畿地方が多く、8月がピークとなっています。

本県の主力品種である「タカミ」は、果肉が緑色で厚く、肉質はやや硬めで日持ち性が良く、糖度が16度前後と極めて高いという特徴を持っています。

全国の生産状況 (H27)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	34,700	1,320
2	北海道	23,400	1,120
3	熊本	21,300	998
4	山形	11,000	558
5	青森	8,890	543
	全国	143,300	7,080

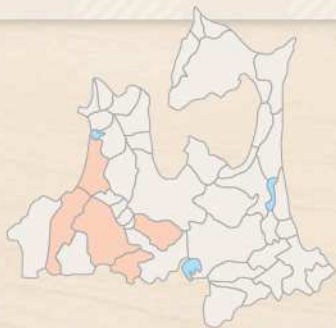
県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業												
			は種(ハウス) → 定植					← 収穫				
			は種(ハウス) → 定植					← 収穫				
出荷時期 (旬の時期)								■				

主な産地

中南●弘前市、黒石市、大鰐町
西北●鱒ヶ沢町、つがる市



産地レポート

つがる市

メロン栽培に適した環境条件

主力産地のつがる市は、本県の作付面積の7割以上を占めています。つがる市の西側に広がる屏風山砂丘地域は、水はけが良いこと、昼夜の温度較差が大きいことから、メロン栽培に最適な環境条件を有し、全国有数のメロン産地となっています。



自慢のメロンをぜひ味わってください!

優れた栽培技術

環境条件と並んで重要なのは栽培技術です。40年以上にわたり培われた栽培技術は地域にとって大きな財産となっています。また、メロンは手間暇を掛けないと品質の良いものができないことから、生産者は惜しみない努力を続けています。



若手生産者の樋口成紀さん



JAごしょつがる木造総合支店における共同選別・出荷

JAごしょつがる木造総合支店メロン部会では、平成25年3月、高画素CCDカメラセンサー付選果機を新たに導入しており、等階級の格付け及び糖度測定をこれまでより速く正確にできるようになったことで、糖度表示等による付加価値の高いプレミアムメロンの出荷が可能になりました。

平成28年度からはJAつがるにしきたのメロンもこの選果機を利用しているため、つがる市産メロンの統一基準ができ、より効果的なアピールが可能になりました。

信頼される産地づくり「つがるブランド」

つがる市では、市内で生産されたメロン等8品目を対象に、エコファーマーの取得等独自の基準を設けて「つがるブランド」に認定しています。

認定されたメロンは、つがるブランドとして各地へ出荷されています。



つがる市農産物
イメージキャラクター
「つが〜ちゃん」

青森県のすいかは屏風山地帯が主産地
昼夜の気温差が大きく水はけが
良いため糖度抜群！



すいか

青森県での主産地は鱒ヶ沢町からつがる市に広がる日本海岸の屏風山（びょうぶさん）地域であり、この一帯で県内の8割以上が生産されています。

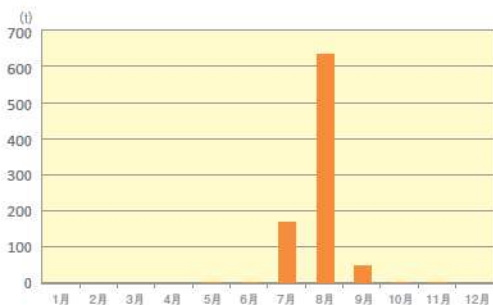
出荷先は関東、東海、近畿地方向けが多く、8月を中心に出荷されています。

品種は綺王系、縞無双、祭ばやしを主体に、姫甘泉、ひとりじめなどの小玉すいか、枕形の紅まくらなど導入されていますが、いずれも果肉の発育が良く、肉質がきめ細かくしまっており、甘さ抜群で日持ちも優れています。

全国の生産状況 (H27)

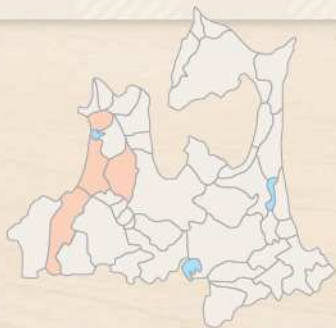
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	49,400	1,490
2	千葉	36,800	1,070
3	山形	29,200	845
4	鳥取	18,200	387
5	新潟	17,900	588
13	青森	7,700	319
	全国	292,400	10,600

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

西北●五所川原市、鱈ヶ沢町、つがる市



産地レポート

屏風山蔬菜生産組合（つがる市木造館岡）

昔から、すいかと言えば「屏風山」

屏風山地域で本格的なすいか栽培が始まったのは、昭和30年代半ばといわれています。地域特有の気候（昼夜の温度較差が大きい）と水はけの良い土地が、糖度を格段に高め、甘くてジューシーだと評判になりました。

昭和40年には、安定した品質・生産・出荷量を確保するため「屏風山蔬菜生産組合」が組織されました。



夏場の産地として市場から高い評価

主力品種は「津軽縞王」、「紅まくら」で、出荷時期は7月中旬～8月末となっています。東京、名古屋、大阪などの市場に出荷され、夏場の産地として市場から高い評価を得ています。

ブランドの名に恥じない、確かな「屏風山西瓜」をお届けします。

ブランドすいか「屏風山西瓜」

昭和44年に「屏風山西瓜」で商標登録を行い、ブランド化に努めてきました。

味を凝縮させるため1株に2～3個だけ着果させるなど、おいしいすいかの生産にこだわっているほか、インターネットによる栽培履歴の開示、組合員全員がエコファーマーを取得するなど、安全・安心な農業を目指しています。



組合長 神成誠治さん

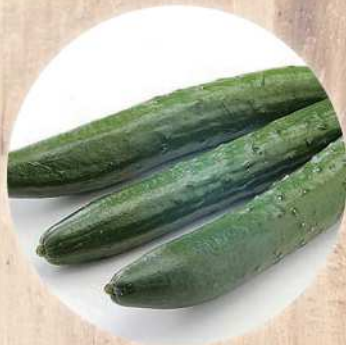
【topic】
屏風山地域
とは…



鱈ヶ沢町から十三湖までの長さ約30km、海岸から内陸3～4kmの地帯を指し、7,500haにも及びます。江戸時代に砂防のため黒松が植林され、その様相が屏風のようにだとして「屏風山」と称されています。

県南地域と都市近郊に生産が集中 関東向けの出荷が大半を占める

きゅうり



きゅうりは、形状、鮮度に加えて、色、光沢など外観が重視される傾向が強く、青森県ではブルームレスきゅうり（以前のきゅうりは表面に白い粉がふいていましたが、この粉のないもの）が主流となっています。

なお、近年は、味にこだわったブルームきゅうりや本県に古くから伝わる糠塚きゅうりなどこだわりの個性派も出荷されています。

県内の主な産地は、五戸町、十和田市、弘前市などとなっています。

『糠塚きゅうり』とは

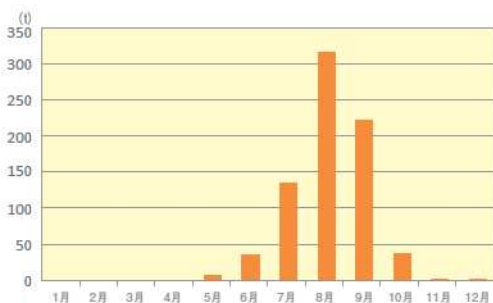
八戸地方で6月下旬～8月のお盆にかけて出回るシベリア系の在来種。藩政時代に持ち込まれ、八戸市の糠塚地区で栽培されたのが始まりとされています。

短太でイボが黒く堅い果皮ですが、中身は歯切れの良いみずみずしい食感です。

全国の生産状況 (H27)

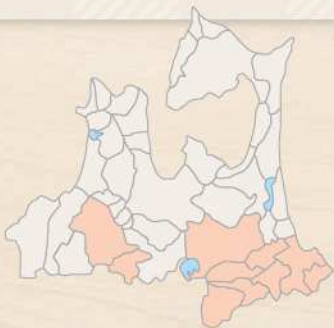
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	宮崎	58,200	689
2	群馬	44,200	870
3	福島	37,200	721
4	埼玉	37,000	592
5	千葉	30,400	506
27	青森	4,020	172
	全国	468,400	11,000

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋●弘前市、大鰐町、八戸市、田子町、五戸町、
南部町、三戸町、新郷村、階上町、十和田市



産地レポート

JA八戸野菜総合部会きゅうり専門部

部会の概要

三八地域は県内一の夏秋きゅうりの産地です。その産地を支えるJA八戸の部会は、合併前の旧川内農協や旧新郷村農協に昭和60年代に設立されました。平成27年の部会員数は121名、共販面積は12.3haとなっています。特に新郷村は若手生産者が多く、県内一の産地を牽引しています。



主な作付品種は「大望」で約8割、他「ほっきこう」が約2割を占めます。生産されたきゅうりは、関東方面に向けて出荷されています。



新郷村の若手生産者 坂根さん



栽培講習会の様子

良いものをより多く

部会では「単収10t以上」を目標に、栽培講習会や管内視察研修、品種比較試験を実施しています。

栽培講習会は、その地域で多く作付されている品種の種苗メーカーと合同で開催し、品種にあった栽培管理の周知に努めています。

また、収穫時期は作業に追われ、管理作業が後回しになり、病気が発生する原因になります。品種比較試験では、労働力が少ない生産者でも品質を落とすことなく生産できる品種の選定を目指しています。

高齢者や女性が生産を支える 出荷量は全国9位も夏場の首都圏の 需要に欠かせない産地



ピーマン

青森県のピーマンは、6～10月に出荷される夏秋ピーマンが中心で、青森市周辺の東青地域や県南部の三八地域などに産地が形成されています。

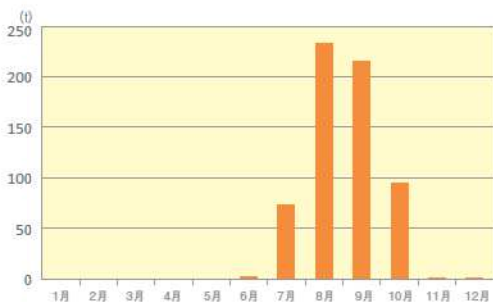
収穫は、すべて手作業となることから、多くの収穫労働力を必要としますが、果実が軽い特性などから、比較的高齢者や女性が取り組みやすい品目として定着しています。

青森県産は、8月に出荷ピークを迎え、東京都中央卸売市場では全国4位の出荷量を誇ります。

全国の生産状況 (H27)

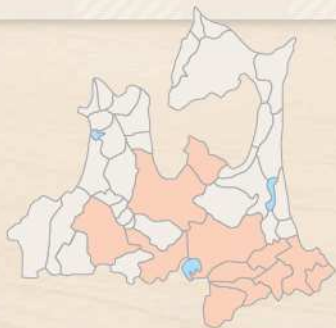
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	30,700	535
2	宮崎	25,400	305
3	高知	12,100	132
4	鹿児島	10,800	149
5	岩手	6,170	176
9	青森	2,650	94
	全国	122,800	3,270

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋●青森市、平内町、弘前市、平川市、八戸市、
田子町、五戸町、南部町、三戸町、新郷村、
階上町、十和田市



産地レポート

J A 八戸

J A 八戸ピーマン・パプリカ専門部の平成27年の生産者数は318名で、作付面積は28haとなっています。出荷ピークは、8月中旬から9月上旬で、1日当たり約5,000ケースが関東・関西を中心に出荷されています。

平成22年には指定産地になり、県内随一の産地が形成されています。



良品・多収生産に向けて

J Aでは、栽培技術向上のための講習会や出荷規格統一のための目揃い会などを定期的で開催し、収量や品質向上を後押ししますが、そこには常に多くの参加者があり、熱心に技術を磨いています。

また、新品種の導入にあたっては品種の試作試験を行い、産地にあった品種を検討するなど、良品多収生産に向けて産地一体となって取り組んでいます。



輝く女性のリーダー！

ピーマン・パプリカ専門部部長の福山さんは昭和58年からピーマン栽培に取り組んでいる大ベテラン。「夫婦でコツコツ作り続けてきた。価格が比較的安定しているのも魅力のひとつ」と楽しそうにお話ししてくださいました。ピーマンを1人でも多くの人に作ってもらいたいとの思いから、普及活動に努め、産地拡大に貢献してきました。将来の産地発展を見据えて県外の先進地へも積極的に出向くなど、女性リーダーとして意欲的に取り組んでいます。

冬場の日照時間が長い太平洋側が主産地
 夏季冷涼な気候で夏秋いちごも
 生産拡大中



いちご

いちごには、11月から6月にかけて収穫される「冬春いちご」と7月から10月にかけて収穫される「夏秋いちご」があります。

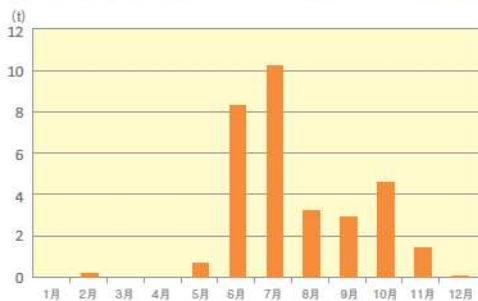
青森県のいちご生産は、「冬春いちご」が多くなっており、冬場の日照時間が長い太平洋沿岸の八戸市が主産地で、出荷は県内市場が中心となっています。

また、近年、本県の夏季冷涼な気候を活かした「夏秋いちご」が中南地域を中心に、県内各地で定着しています。

全国の生産状況 (H27)

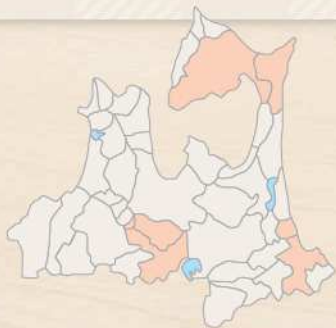
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	栃木	23,100	593
2	福岡	15,200	452
3	熊本	10,400	324
4	長崎	9,810	282
5	静岡	9,740	308
—	青森	—	—
	全国	145,200	5,450

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

冬春いちご ● 田舎館村、八戸市、おいらせ町
夏秋いちご ● 平川市、黒石市、田舎館村、東通村、むつ市



産地レポート

J A 十和田おいらせむつ支部果菜部会

組合の概要

J A 十和田おいらせむつ支部果菜部会は、むつ市と東通村の生産者13戸で構成されており、下北地域の夏季冷涼な気候を活かした夏秋いちご「すずあかね」を中心に生産と販売を行っています。

生産の拡大と新たな品種への取組

果菜部会では、夏秋いちごの生産拡大に向けて、部長自らが新規部会員や受け入れた研修生に対して積極的に指導等を行い、担い手となる生産者の掘り起こしに力を入れた結果、平成18年度の部会設立時の部会員7人、栽培面積116aが、平成28年度には部会員13人、栽培面積は244aと拡大しています。

また、部会を設立した平成18年の品種は「ベチカ」でしたが、その後、耐暑性に優れた「ベチカサンタ」「ベチカプライム」と切り替え、現在は果肉が硬く管理作業の省力化が図れる「すずあかね」が主力となっています。



研修会の様子

夏季冷涼な下北は夏秋いちごの栽培適地

いちごは暑さに弱い作物なので、夏季冷涼な下北の気候は、夏秋いちごの栽培に適しています。果菜部会では、この有利な環境条件を生かして、品質が良く収益性の高い夏秋いちごの栽培を行っています。

転作作物として定着
7月から10月まで、安定した出荷で
需要に応える

えだまめ



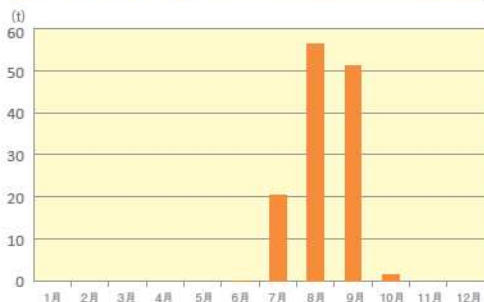
青森県のえだまめは、田子町、弘前市、南部町などで転作田を中心に栽培されています。7～10月まで出荷するために品種を組み合わせる作付けされています。

8月下旬以降は、食味の良い在来種の「毛豆」や毛豆から生まれた「あおり豊丸」、「あおり福丸」が出荷されます。莢に茶色のフサフサした毛があり、粒がとて大きく、味が濃いのが特徴です。

全国の生産状況 (H27)

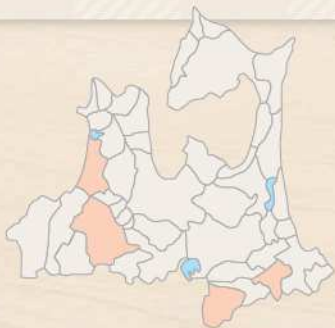
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	6,070	829
2	北海道	5,150	887
3	山形	4,830	1,430
4	群馬	4,230	1,120
5	埼玉	4,190	693
15	青森	553	304
	全国	49,100	12,500

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

- 中南●弘前市
- 三八●田子町、南部町
- 西北●つがる市



産地レポート

J A つがる弘前枝豆部会

J A つがる弘前枝豆部会は、平成18年に設立されました。平成28年の部会員数は35名、栽培面積は約4haです。

部会の主な作付品種は、「湯上がり娘」と「サッポロミドリ」です。この2品種で栽培面積の7割を占めます。これらの他、「一力」「ジャスト75」「あおり豊丸」が作付けされています。

出荷先は、八戸中央青果、青森合同青果、弘前中央青果など県内市場が主です。



えだまめ栽培の利点

えだまめに取り組んでいる生産者のほとんどが、「りんご+えだまめ」という複合経営です。えだまめ栽培は「初期投資が少ない」「生育期間中の作業が少ない」「りんごの農閑期に収入が得られる」といった利点があり、りんご栽培が盛んな中南地域で重要な品目となっています。

今後の課題

最近、干ばつによる莢数の減少、集中豪雨による湿害などで、単収が伸び悩んでいます。また、鮮度を保つため枝付きで出荷していますが、調製作業に時間がかかることが課題です。

これらが解決できれば、更なる産地拡大が期待できます。



講習会の様子

温暖で夏季冷涼な気候を好む
東京都中央卸売市場の
9月入荷量全国2位！



さやいんげん

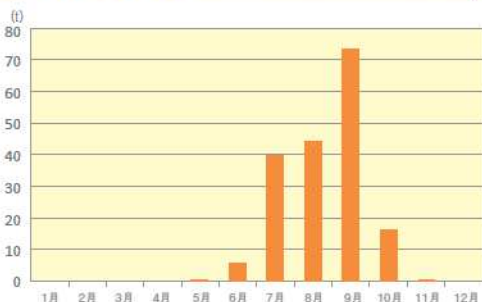
緑色野菜で栄養価が高いうえ用途が幅広いため、消費が伸びています。栽培に当たっては県内及び東北向けの場合は平莢、東京向けについては丸莢を主体とした生産が必要となります。代表的な品種として、丸莢品種では「スーパーステイヤー」、平莢品種では「マンズナル」が栽培されています。

夏場に生産され、東京都中央卸売市場への9月出荷では福島県に次ぐ全国2位を誇り、国内出荷量の約2割を占めます。

全国の生産状況 (H27)

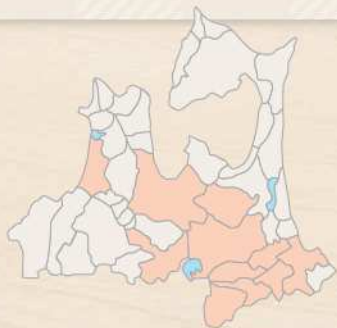
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	3,870	494
2	鹿児島	3,120	405
3	北海道	2,940	371
4	福島	2,560	529
5	沖縄	1,930	192
11	青森	542	119
	全国	26,300	5,760

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

東青●青森市
 中南●平川市
 三八●八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、
 新郷村
 西北●つがる市
 上北●十和田市、七戸町



産地レポート

JA八戸



八戸市、五戸町、南部町を中心に生産者168名がさやいんげんの栽培に取り組み、作付面積は12.7haで、県内1位の産地となっています。

作型は、移植栽培、直播栽培で、収穫・出荷は5月下旬～10月下旬まで行われています。鮮度管理を徹底し、新鮮なさやいんげんを常に出荷するよう部会員一丸となって取り組み、市場から高評価を得ています。



鮮度の良い物をしっかり出荷

「さやいんげんは、高うねなど排水対策を徹底した水はけの良い畑、堆肥等による土づくり、生育に合わせた適正施肥が重要」「鮮度を保つため、出荷のピーク時には朝夕の2回採りを必ず行う」「水分が蒸散しないように収穫から選別、段ボールに詰めるまでの管理が重要」と真面目な口調で話してくださったのはJA八戸野菜総合部会キヌサヤ・インゲン・そら豆専門部副部長の館良男さん。さやいんげん



4.2aの他に、ぶどう、花きなど少量他品目を栽培しています。

「部会全員で適期収穫を心がけており、毎年、6月には専門部による管内視察を行って、部会員同士の情報交換に努めています。」

「近年、ハダニ類やアブラムシ類の発生が多いので、適期防除を徹底している」と専門部の活動についても紹介していただきました。

JA八戸のさやいんげんは、鮮度が良く美味しいので、ぜひ、食べてみてください



豆類専門部副部長 館 良男氏

ながいもなどの輪作や転作田への
導入で生産が拡大
根深ねぎの出荷量は東北一



ね ぎ

関東では白い部分が長い根深ねぎ（白ねぎ）、関西では緑色が大部分の葉ねぎと地域によって好みが変わりますが、青森県での生産は、土寄せをして軟白化させた根深ねぎが主体となっています。

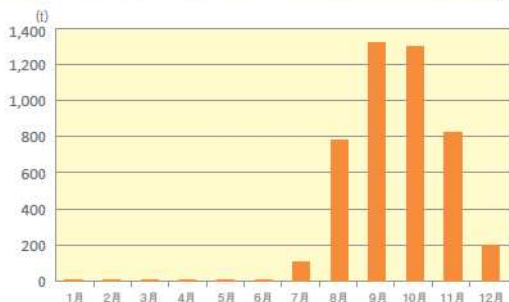
特に、夏ねぎ（7～9月）の出荷量は全国で5位にランクされます。

県南地域ではながいも等との輪作作物として、また、津軽地域では水田の転作作物として作付けされています。

全国の生産状況 (H27)

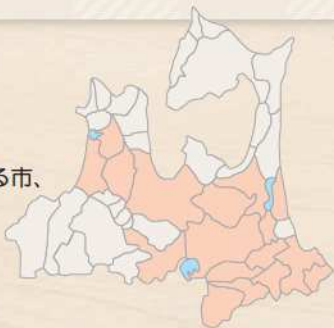
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	59,000	2,330
2	埼玉	49,100	2,430
3	茨城	40,800	1,900
4	北海道	22,300	794
5	群馬	15,700	1,080
8	青森	10,800	549
	全国	383,100	22,800

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

- 夏 ● 青森市、八戸市、田子町、五戸町、南部町、
三戸町、新郷村、階上町、五所川原市、つがる市、
中泊町、十和田市、七戸町、東北町
- 秋冬 ● 平川市、八戸市、田子町、五戸町、南部町、
三戸町、新郷村、階上町、五所川原市、
つがる市、中泊町、十和田市、七戸町、
東北町、三沢市、六戸町



産地レポート

J A 十和田おいらせ野菜振興会ねぎ専門部会 (ぼけしらずネギ)

J A 十和田おいらせ野菜振興会ねぎ専門部会は、十和田市とその近隣町村195人で構成され、約90haでねぎ栽培に取り組んでいます。



評価の高い「ぼけしらずネギ」

J A 十和田おいらせは、栄養バランスの整った健康な土壌での野菜づくりを目指しています。健康な土壌をつくるため、堆肥分析装置や土壌分析・診断システムを導入して徹底した土壌分析を行い、過剰な肥料成分は控え、不足している肥料分だけを補給しています。

このような土壌で栽培し、出荷前の糖度と硝酸値が基準を満たした野菜が「十和田おいらせミネラル野菜」として出荷されます。その中で、ねぎは、最終培土後に手作業で土寄せすることで、葉身の緑と軟白部分の白色の境目がはっきりとした「ぼけしらずネギ」として、市場から高い評価を得ています。

生産者を訪問して

部会員である十和田市大深内地区の水尻忠司さんを訪問しました。生育が揃っていてきれいに管理されたほ場からは、健康な土壌から安全・安心なねぎを生産する気持ちが伝わってきました。



水尻さん夫妻

日本人が最も食べる野菜で、
夏秋期には夏季冷涼な気候を
活かして全国7位の産地



キャベツ

青森県のキャベツは、6～10月が出荷の中心で、特に夏秋キャベツ（7～10月）の出荷量は、全国7位です。

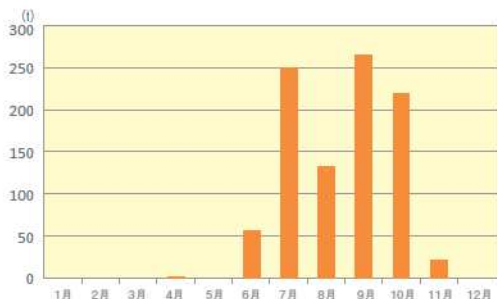
キャベツの品種・系統としては、「春系」や「寒玉系」などが代表的ですが、春系（サワー系）は葉がやわらかでサラダ向き、寒玉系は葉がややかためで加熱すると甘くなることから餃子やロールキャベツに向きます。

本県では、春系が主ですが、用途や生産時期に応じて寒玉系も生産され、主な産地は、おいらせ町、三沢市、平川市などとなっています。

全国の生産状況 (H27)

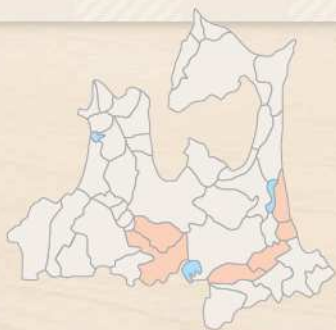
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	愛知	247,700	5,540
2	群馬	223,400	3,760
3	千葉	120,000	2,910
4	茨城	97,700	2,320
5	神奈川	71,200	1,660
15	青森	14,100	468
	全国	1,310,000	34,700

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋 ● 平川市、黒石市、五戸町、新郷村、三沢市、
おいらせ町



産地レポート

J A十和田おいらせ ももいし支店

加工・業務用生産の開始

J A十和田おいらせももいし支店のあるおいらせ町は、県内一の夏秋キャベツの産地として、県内外から高い評価を得ています。

J Aでは、国内需要への対応と生産者の所得確保、収益向上を目的に、平成18年から加工・業務用キャベツの生産に取り組んでいます。



◆契約取引の取組

J Aでは、主にサラダ商品用の材料として、県内外の流通・加工業者と加工・業務用キャベツの契約取引を行っています。平成28年は契約取引先7社に約350tを出荷しました。

◆収益性向上に向けて取組

取引量を拡大し収益向上につなげるため、品種比較試験を行い、球のしまりが良く内葉に青みが残る品種を選び、取引先が要望する品種を作付けしています。現在の主な作付品種は「みくに」と「慶春」です。

また、出荷作業にリース導入したスチールコンテナを利用し、省力化と流通経費の低減に努めています。



スチールコンテナでの出荷

涼しい気候の八甲田高冷地が産地。
高原レタスは鮮度の良さが決め手！

レタス



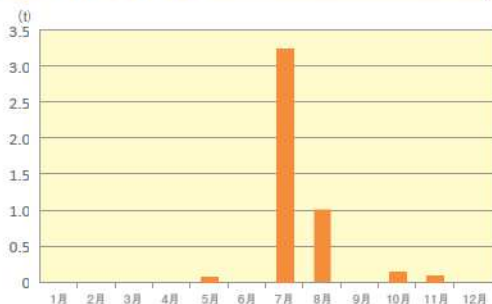
レタスといえば高原野菜の代表格として、長野県や群馬県をイメージする方も多いと思います。冷涼で乾燥した気候を好むレタスは、青森県の気候にも合い、夏秋期に生産されています。

本県産の出荷は、6～10月が出荷の中心となっています。主な産地は、平川市、黒石市となっており、夏季も冷涼で昼夜の気温差が大きく夏秋期のレタスの生産に適している地域です。

全国の生産状況 (H27)

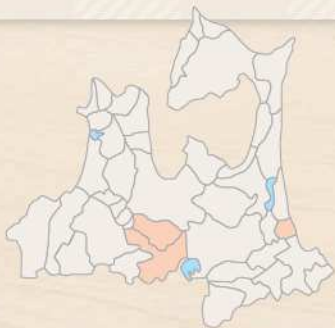
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	長野	186,900	5,940
2	茨城	83,900	3,720
3	群馬	47,000	1,270
4	長崎	29,700	943
5	兵庫	29,600	1,270
22	青森	2,030	113
	全国	537,700	21,500

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

夏秋●平川市、黒石市、おいらせ町



産地レポート

南八甲田高原野菜生産組合 (JA津軽みらい)

高冷地だからこそ、ここが違う夏秋レタス

八甲田山系の南西に位置し、標高350～700mの山間谷地に広がった畑で夏期の冷涼な気候を活かした夏場のレタスが栽培されています。

この産地は、日中の寒暖の差が大きいことから品質が良く、市場からも一目置かれる産地となっています。



雪が消えたらまずレタス作業、高冷地はレタスから始まる！

高冷地では、だいこん、にんじんが多く作付けされていますが、雪解けに合わせてレタスの苗づくりが始まり、収穫もレタスが最初となります。

環境にあった栽培による良品生産

①品種試験による品種選定

産地の環境にあった品種を導入するため、組合では品種試験を実施し、高冷地に合った物を見極めていきます。

②やさしい適した土づくり！

土づくりに重点をおいており、レタスの生育に必要な栄養を蓄えた土壌にするため緑肥や堆肥を施用しています。

愛情たっぷり！
自慢のレタスをぜひ
ご賞味ください！！

昔からの「絶対産地」！

なんと、夏秋レタスで国の指定産地になったのは昭和47年で、それから40年以上ずっと産地を守っています。



生産者の工藤則光・光枝夫妻

【topic】

南八甲田高原
野菜生産組合

戦後の入植・開拓から始まり、昭和40年代には畑作・畜産経営から徐々に野菜経営に転換し、昭和55年には組合を組織。平成8年には優れた組織活動が認められ、第34回朝日農業賞を受賞。標高の高い順に善光寺平、大木平、葛川、小国、切明、平六、井戸沢に大別されます。

ほうれんそうは秋からが旬
夏場でも涼しい青森県は
1年中栽培可能



ほうれんそう

暑さに弱いほうれんそうは、夏が暑い他県では生産が困難です。このため、青森県では、涼しい気候を活かし、夏場の生産拡大を図っています。また、寒さにも強く、冬でも無加温ハウスで栽培できることから、年間を通じた生産も行っています。

は種から約1ヶ月で収穫でき、軽作業でできることから、高齢者でも生産が可能です。

全国の生産状況 (H27)

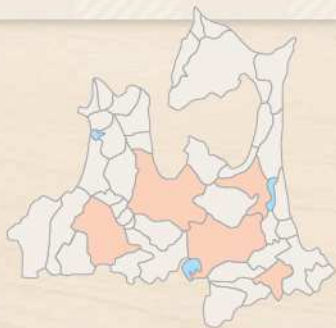
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	32,100	2,250
2	埼玉	21,700	2,130
3	群馬	18,600	1,830
4	茨城	15,500	1,180
5	宮城	15,300	993
25	青森	1,570	206
	全国	209,800	21,000

県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



主な産地

青森市、弘前市、南部町、十和田市、東北町



産地レポート

JA八戸野菜総合部会

寒締めほうれんそうの取組

JA八戸野菜総合部会では、冬場の所得確保のために、平成17年から新郷村で輪ギクの後作としてほうれんそう栽培の取組を進めています。このほうれんそうは、9月下旬～10月上旬のは種直後からハウスを開放し、寒さに当てることによって、通常より甘みを増した「寒締めちぢみほうれんそう」として12月中旬から2月下旬頃まで販売しています。この取組は年々拡大して、現在、八戸市、五戸町、南部町などJA八戸管内全域に広がり、生産者は61名、栽培面積は約4.5haの産地となっています。



産地ブランドの評価向上に向けた取組

JA八戸では、寒締めちぢみほうれんそうのブランド化を図るために、出荷先の市場や県の農業普及振興室と連携した栽培研修会等を開催しているほか、栽培マニュアルの作成や、マルチ栽培による茎葉への土の付着防止、土壌肥料分の測定による

適正な施肥管理など栽培技術の向上に努めています。

また、出荷前には、糖度8度以上を確認してから出荷するなど、品質や規格を統一した販売を行っています。

寒締めほうれんそう



冬期に葉や茎が縮んでシワシワになったほうれんそうが注目されています。ほうれんそうが寒さに耐えるために葉に糖などを蓄える性質を利用して、冬の冷たい空気にさらすことにより、通常のほうれんそうよりも甘くなったものが「寒締めほうれんそう」です。県内では新郷村、南部町、弘前市、東北町などで生産が盛んです。

寒さに耐える植物は、体内の糖濃度を高めて、凍ってしまうのを防ぐ働きを持っています。寒さに弱い植物・野菜はこの働きが弱く、凍って細胞が壊れ、枯れてしまいます。

ほうれんそうの場合は、糖度が上がるだけでなく、ビタミン類の含有量も高くなります。葉の色も濃くなり、甘みだけでなく濃厚な味になるといわれています。

転作田への導入で生産拡大
 夏季冷涼な気候で全国的に品薄な
 夏秋期に出荷



ブロッコリー

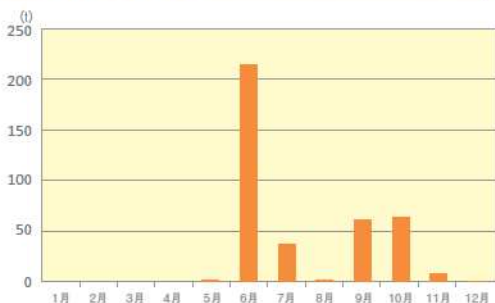
ブロッコリーは、夏場は北海道や長野県、秋冬は愛知県や埼玉県から出荷が多く、青森県ではこれらの産地の端境期となる6月と10月を中心に生産・出荷されています。

主な出荷先である首都圏では、鮮度の良さで高い評価を得ています。

全国の生産状況 (H27)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	22,800	2,490
2	愛知	14,200	970
3	埼玉	13,900	1,310
4	香川	10,100	981
5	徳島	7,960	722
22	青森	1,050	170
	全国	135,500	14,500

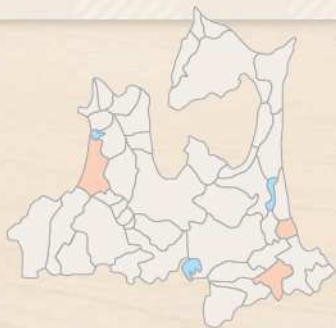
県産月別入荷量 (H27 東京都中央卸売市場)



項目/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
農作業	マルチ春まき												
	●		←		→		←		→				
	は種 (ハウス)		定植				収穫						
農作業	夏まき												
							● ←		→				
						は種		定植		収穫			
農作業	夏まき												
							● ● ←		→				
						は種		定植		収穫			
出荷時期 (旬の時期)						■		■					

主な産地

- 三八●南部町
- 西北●つがる市
- 上北●おいらせ町



産地レポート

J A つがるにしきた

稲作地帯にあって野菜の複合経営の柱となる品目へ成長

つがる市は、津軽平野の岩木川左岸に位置する古くからのコメどころ。米の生産調整の強化を背景に、早くからトマトやねぎ等との複合経営化が進められてきました。その中で、ブロッコリーは平成8年に作付が開始され、他品



若手生産者の長谷川圭一夫妻

目と労力が重ならず夏場に収益が得られる品目として生産が拡大。平成27年には出荷額が2億円を突破。現在は作付面積が約70haと県内随一の産地が形成されています。

暑い時期は、気温の低い早朝からの収穫を心がけているので、鮮度には自信があります！

鮮度を保持する出荷体制を整え市場から高評価

気温の低いうちに収穫したブロッコリーは、すぐに集出荷施設へ搬入され、選別、発泡スチロール箱への箱詰めを経て、保冷庫に保管。翌朝、細かく砕いた氷が箱いっぱい詰められ、鮮度と美味しさを保ったまま保冷車で首都圏に出荷されていきます。

氷詰め出荷により、鮮度とおいしさが保たれ、首都圏の市場からも高い評価をいただいています。



J A つがるにしきた
坂本さん



選果・箱詰め



保冷庫保管



氷詰め

※集出荷施設は、予冷庫2基に加え、貯水量8tの製氷貯氷機を備える。

青森の伝統野菜

○筒井紅かぶ・筑石かぶ

青森市内で100年以上前から漬物用の赤かぶとして、筒井地区で「筒井紅かぶ」、久栗坂地区で「筑石かぶ」が栽培されています。

どちらも収量が低く、漬物需要の減少などから作付けが減少しましたが、平成26年、伝統野菜を伝承する「あおり伝統野菜研究会」が結成され栽培技術研修会など作付拡大活動を展開しています。

○大鰐温泉もやし

大鰐温泉の特産品で、350年以上前から温泉を熱源とした半地下の「土室(つちむろ)」の中で豆もやしとそばもやしが生産されます。

栽培から出荷洗浄までに使用する水も温泉水を使っていることから、独特の芳香とシャキシャキした食感が特徴です。おひたしや炒め物、ラーメン、鍋物などにされています。



清水森ナンバ

○清水森ナンバ

旧津軽藩主が京都から持ち帰ったのが栽培の始まりと伝えられている在来種のトウガラシで、弘前市清水森地区で栽培されていました。

2004年に、地元関係者や学識経験者などが「在来津軽『清水森ナンバ』ブランド確立研究会」を設立し、種子の確保、栽培体系の確立に取り組み、爽やかな辛さとほのかな甘みが特徴の特産品として販売されています。

○食用ぎく

三八地域で古くから栽培されている主力品種の「阿房宮」は、鮮やかな黄色と気品のある香り、シャキシャキした食感が特徴です。

10月下旬～11月上旬にかけて摘み取られ、酢の物や和え物などの郷土料理の彩りとして欠かせない存在となっています。蒸して乾燥させた「干し菊」は特産品となっています。

○糠塚きゅうり

三八藩政時代に八戸市糠塚地区に植えたのが始まりとされています。

病気に弱く収量が少ないため、栽培面積は減少してしまいました。よく冷やしたものを割って種を取り、味噌をつけて食べるのが最もおいしいといわれています。

歯切れの良い食感とみずみずしさが魅力となっています。

○南部太ねぎ

一般品種と比べて甘く、鍋や天ぷらなどに合うことから南部町で多くの農家が栽培していたものの、新品種開発や機械化が進むと一気に衰退し、栽培者が1人だけになりました。

名久井農業高校では、種を譲り受け、栽培してきましたが、その思いが地元の農家に引き継がれ現在では約10人が栽培しています。



名久井紅かぶ 灰石かぶ



食用ぎく



糠塚きゅうり



黒皮もやし



南部太ねぎ



まだまだあるぞ！ あおもり野菜



嶽きみ

弘前市の西部にある岩木山麓の嶽地区（標高400～500m）で栽培・収穫された甘みの強いスイートコーンで、「嶽きみ」の商標で販売されています。日中と夜間の温度差が生み出す圧倒的な甘さと美味しさが、多くの人に愛され、全国的に有名な産地となっています。



バサラコーン

青森市の浪岡地区では、粒が大きく、味がよいスイートコーンを生産しており、「バサラコーン」の商標で販売されています。「バサラ（婆娑羅）」とは、中世代の武将などの華美な装飾をまとった伊達（だて）な風体やふるまいなどを表しますが、ここでは時代に新風を起こすという意味で使われています。



アスパラガス

鯉ヶ沢町を筆頭に県内各地で栽培されています。近年は、収穫期間（普通栽培で4月下旬～7月上旬頃）を拡大するために、早めに若茎を伸ばして光合成をさせながら収穫を続ける立茎栽培や、夏に養成した親株をハウスに伏せ込み冬場に出荷する促成栽培などの取組が増えています。



一球入魂かぼちゃ

たった1個の実に、株全体のうまみを凝縮させた大変に美味しい高級かぼちゃで、下北地域と今別地域の特産野菜として注目されています。

濃い緑色の果皮と山吹色の鮮やかな果肉、糖度13～15度の甘さとホクホクした食感の絶妙なバランスが特徴です。

一球入魂かぼちゃブランド戦略協議会が商標登録して、販売しています。



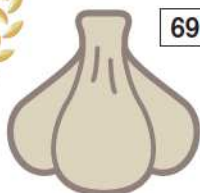
《出荷量の全国順位とシェア》

出荷量の全国ベスト10に10品目 (H27)

青森県で生産される野菜の中には、全国一の出荷量を誇るにんにく、ごぼうをはじめとして、ながいも、だいこん、かぶなど出荷量が全国の10位以内に入る品目が10品目あります。



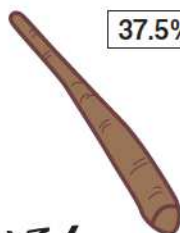
にんにく



69.8%



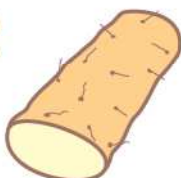
ごぼう



37.5%



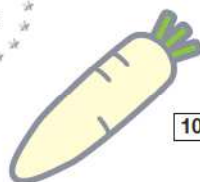
ながいも



43.2%



だいこん



10.4%



かぶ



6.8%



にんじん



6.4%



メロン



6.2%



ばれいしょ



0.6%



ねぎ



2.8%



ピーマン



2.2%

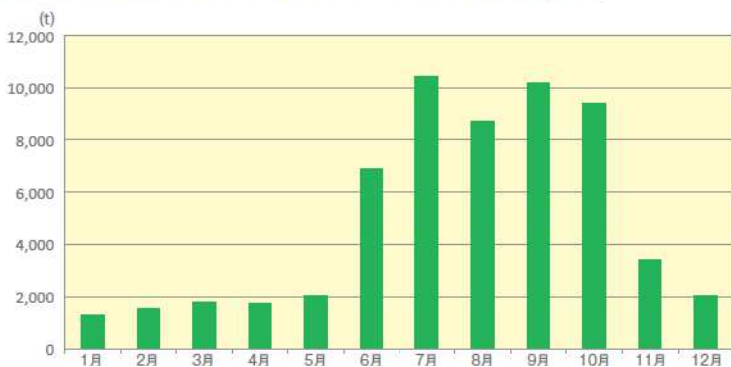
資料：野菜生産出荷統計 (H27)

夏秋期に高い評価

ながいもやにんにく、ごぼうなど貯蔵できる一部の品目を除くと、青森県産野菜の出荷時期は夏秋期が中心です。

一般に、気温が高くなると、病害虫の発生が多く良品質の野菜を生産することが困難になります。青森県は、夏場が比較的冷涼なことから、夏秋期に品質の優れた美味しい野菜を生産しています。

<東京都中央卸売市場における青森県産野菜の入荷量（H27）>

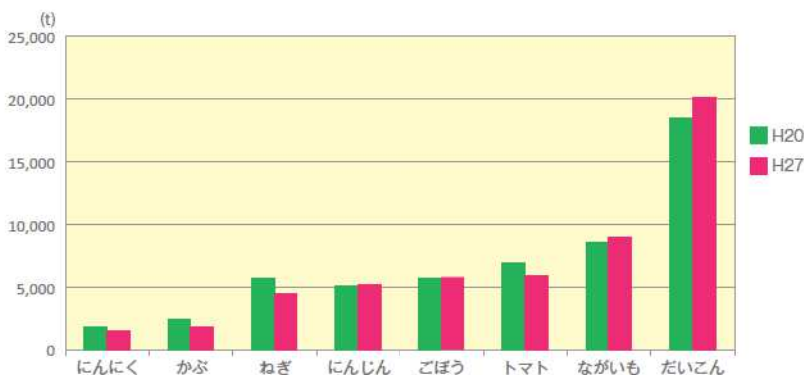


東北では1位のシェア

高速交通網の整備やコールドチェーン（産地から消費地まで一貫した低温状態での流通）の発達等によって遠隔地への出荷が拡大しています。

東京都中央卸売市場への出荷量は、平成27年には59,598 tで全国で7位、東北で1位のシェアを占めています。

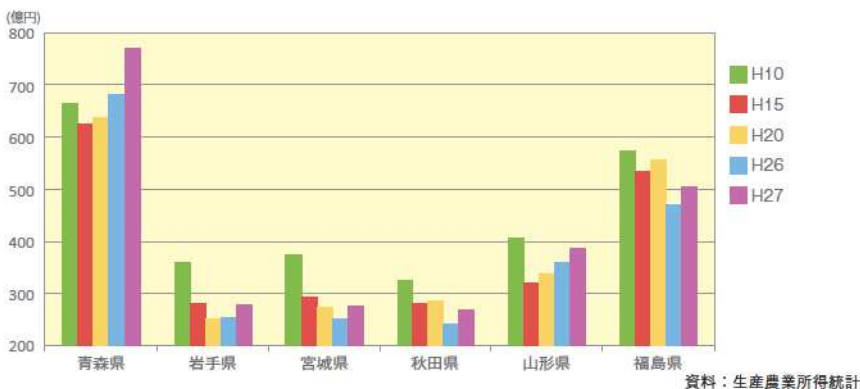
<東京都中央卸売市場における青森県産野菜入荷量の変化>



野菜産出額東北一を堅持

平成27年の野菜産出額（いも類含む）は、773億円となり、全国で13位、東北では平成6年に福島県を抜いて以来、22年連続して1位になっています。

<野菜産出額の推移>

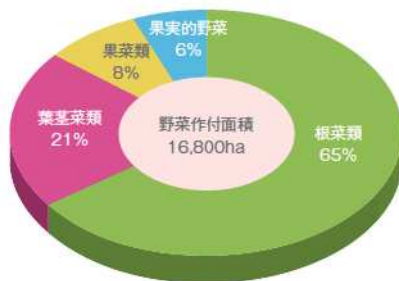


広大な農地を利用して根菜類中心の作付け

平成27年の野菜作付面積は、16,800haと前年に比べやや減少しているものの、全国で7位の作付面積を誇り、東北の約1/4を占めています。

品目別では、ながいも、ごぼう、にんにく、だいこんなどの根菜・土物類が大きな割合を占めています。

<青森県の野菜の類別作付面積構成比（H27）>



資料：野菜作付面積：農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率
 類別面積構成比：野菜生産出荷統計（青森県データがある23品目で算出）

付 表

主要野菜の生産・出荷状況 (H27)

区 分	青 森 県			全 国			全国シェア (%)			全国順位		
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	面積	収穫量	出荷量	面積	収穫量	出荷量
だいこん	3,060	132,600	120,400	32,900	1,434,000	1,161,000	9%	9%	10%	2	3	3
やまのいも	2,280	57,000	50,700	7,270	163,200	134,300	31%	35%	38%	1	2	2
うちながいも	2,250	56,500	50,400	5,200	138,200	116,600	43%	41%	43%	1	2	2
ごぼう	2,320	52,900	49,100	8,000	152,600	131,100	29%	35%	37%	1	1	1
にんにく	1,350	13,800	9,980	2,330	20,500	14,300	58%	67%	70%	1	1	1
にんじん	1,240	39,500	36,200	18,100	633,100	563,000	7%	6%	6%	3	4	4
ばれいしょ	803	18,400	13,000	77,400	2,406,000	2,006,000	1%	1%	1%	8	8	6
メロン	543	10,100	8,890	7,080	158,000	143,300	8%	6%	6%	5	5	5
ねぎ	549	13,900	10,800	22,800	474,500	383,100	2%	3%	3%	14	7	8
キャベツ	468	16,600	14,100	34,700	1,469,000	1,310,000	1%	1%	1%	16	15	15
スイートコーン	—	—	—	24,100	240,300	194,100	—	—	—	—	—	—
トマト	386	17,600	15,700	12,100	727,000	653,400	3%	2%	2%	8	13	13
うち、ミニトマト	48	2,210	1,980	2,320	131,300	121,100	2%	2%	2%	14	15	15
うち、加工用トマト	18	448	426	497	32,900	32,500	4%	1%	1%	6	10	10
すいか	319	8,960	7,700	10,600	339,800	292,400	3%	3%	3%	13	13	13
えだまめ	304	1,360	553	12,500	65,900	49,100	2%	2%	1%	10	12	15
はくさい	233	6,010	3,730	17,600	894,600	723,700	1%	1%	1%	22	26	21
かぼちゃ	—	—	—	16,100	202,400	160,400	—	—	—	—	—	—
かぶ	205	8,100	7,340	4,630	131,900	108,400	4%	6%	7%	5	3	3
ほうれんそう	206	2,030	1,570	21,000	250,800	209,800	1%	1%	1%	26	25	25
ブロッコリー	170	1,230	1,050	14,500	150,900	135,500	1%	1%	1%	19	22	22
きゅうり	172	5,480	4,020	11,000	549,900	468,400	2%	1%	1%	19	26	27
アスパラガス	—	—	—	5,470	29,100	25,700	—	—	—	—	—	—
なす	121	1,380	575	9,410	308,900	237,400	1%	0%	0%	30	42	40
レタス	113	2,300	2,030	21,500	568,000	537,700	1%	0%	0%	24	23	22
うち、サラダ菜	1	16	14	450	8,180	7,450	0%	0%	0%	25	27	26
さやいんげん	119	876	542	5,760	40,300	26,300	2%	2%	2%	14	10	11
いちご	—	—	—	5,450	158,700	145,200	—	—	—	—	—	—
ピーマン	94	3,140	2,650	3,270	140,400	122,800	3%	2%	2%	8	9	9
うち、ししとう	2	9	3	354	7,680	6,250	1%	0%	0%	25	29	29
さやえんどう	—	—	—	2,980	19,300	12,100	—	—	—	—	—	—
グリーンピース	—	—	—	827	5,910	4,590	—	—	—	—	—	—
こまつな	—	—	—	6,860	115,400	100,200	—	—	—	—	—	—
しゅんぎく	37	312	202	2,000	31,700	25,500	2%	1%	1%	14	19	19
たまねぎ	—	—	—	25,700	1,265,000	1,124,000	—	—	—	—	—	—
カリフラワー	—	—	—	1,260	22,100	18,400	—	—	—	—	—	—
そらまめ	20	204	153	2,020	16,800	11,800	1%	1%	1%	11	11	11
にら	—	—	—	2,150	61,500	55,500	—	—	—	—	—	—
ちんげんさい	—	—	—	2,220	44,100	38,600	—	—	—	—	—	—
ふき	—	—	—	592	11,500	9,640	—	—	—	—	—	—
さといも	—	—	—	12,500	153,300	97,800	—	—	—	—	—	—
みつば	—	—	—	1,030	15,600	14,600	—	—	—	—	—	—
みずな	—	—	—	2,550	44,000	39,500	—	—	—	—	—	—
セルリー	—	—	—	589	32,300	30,600	—	—	—	—	—	—
れんこん	—	—	—	3,950	56,700	47,400	—	—	—	—	—	—
しょうが	—	—	—	1,840	49,400	39,100	—	—	—	—	—	—

注:「—」は生産・出荷の事実がないことを示す。

資料:野菜生産出荷統計

野菜生産状況の推移

区 分	青 森 県				全 国			
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	出荷率 (%)	作付面積 (ha)	収穫量 (千t)	出荷量 (千t)	出荷率 (%)
S50	17,500	397,500	268,580	67.6	656,200	17,906	13,346	74.5
S55	19,400	380,500	280,113	73.6	682,700	18,676	14,460	77.4
S60	21,030	451,947	354,041	78.3	681,100	18,896	14,811	78.4
H元	21,930	461,346	361,704	78.4	658,700	18,507	14,578	78.8
H2	22,170	495,529	387,064	78.1	647,200	18,107	14,269	78.8
H3	22,060	480,821	377,717	78.6	639,400	17,727	14,081	79.4
H4	22,020	477,273	373,947	78.4	631,100	18,009	14,254	79.1
H5	21,920	453,707	358,709	79.1	617,700	17,065	13,665	80.1
H6	21,970	484,481	386,476	79.8	602,100	16,852	13,500	80.1
H7	21,250	490,791	396,001	80.7	588,200	16,907	13,557	80.2
H8	21,130	482,076	383,604	79.6	579,300	16,666	13,376	80.3
H9	21,030	489,856	388,721	79.4	569,300	16,675	13,426	80.5
H10	20,990	471,130	373,255	79.2	560,000	15,707	12,687	80.8
H11	20,940	494,424	392,552	79.4	553,200	15,829	12,804	80.9
H12	20,850	499,172	399,409	80.0	539,600	15,667	12,694	81.0
H13	20,130	482,354	386,881	80.2	524,800	15,547	12,628	81.2
H14	18,900	469,900	377,800	80.4	539,300	15,695	12,781	81.4
H15	18,200	440,000	357,600	81.3	528,200	15,169	12,419	81.9
H16	17,900	467,300	381,600	81.7	519,400	14,540	11,922	82.0
H17	17,100	457,600	374,900	81.9	511,900	14,528	11,895	81.9
H18	17,400	477,300	394,400	82.6	505,800	14,332	11,749	82.0
H19	18,126	482,798	404,609	83.8	503,360	14,746	12,230	82.9
H20	17,442	468,928	395,289	84.3	500,703	14,604	12,127	83.0
H21	16,588	443,860	380,681	85.8	498,160	14,048	11,660	83.0
H22	17,403	417,192	356,027	85.3	495,535	13,365	11,129	83.3
H23	16,009	425,459	367,389	86.4	490,271	13,513	11,298	83.6
H24	15,586	462,478	355,947	77.0	488,448	13,799	11,561	83.8
H25	16,606	419,865	359,926	85.7	481,338	13,551	11,451	84.5
H26	15,105	407,659	353,465	86.7	476,990	13,757	11,665	84.8
H27	15,112	413,782	360,985	87.2	474,638	13,654	11,606	85.0
H27/H17	88%	90%	96%	—	93%	94%	98%	—
H27/H22	87%	99%	101%	—	96%	102%	104%	—
H27/H26	100%	102%	102%	—	100%	99%	99%	—

注) 野菜生産出荷統計の調査品目の積上げ

資料：野菜生産出荷統計

野菜産出額及び農業産出額の推移

区 分	野 菜 産 出 額					農 業 産 出 額		
	青森県 (億円)	東 北 (億円)	全 国 (億円)	青森県の順位		青森県 (億円)	野菜の占 める割合 (%)	全 国 (億円)
				東 北	全 国			
S50	295	1,551	14,951	2	19	2,908	10.1	89,751
S55	343	1,429	20,858	3	21	2,345	14.6	102,293
S63	516	2,409	23,981	2	16	2,723	18.9	104,636
H元	530	2,522	24,665	2	16	3,173	16.7	109,583
H2	620	2,811	27,168	2	16	3,270	19.0	112,786
H3	622	2,897	28,495	2	17	3,004	20.7	111,865
H4	580	2,681	25,969	2	16	3,500	16.6	111,385
H5	637	2,848	27,774	2	16	2,552	25.0	104,069
H6	705	2,877	27,514	1	14	3,575	19.7	112,691
H7	646	2,672	26,481	1	15	3,193	20.2	105,846
H8	647	2,587	25,642	1	14	3,131	20.7	104,468
H9	630	2,620	25,378	1	15	2,849	22.1	98,316
H10	667	2,708	27,419	1	15	2,801	23.8	98,680
H11	666	2,594	24,991	1	14	2,776	24.0	94,718
H12	630	2,426	23,486	1	14	2,648	23.8	92,574
H13	598	2,375	22,861	1	14	2,575	23.2	89,734
H14	625	2,427	23,864	1	13	2,570	24.3	89,261
H15	626	2,337	23,370	1	14	2,402	26.1	89,011
H16	716	2,490	23,421	1	10	2,953	24.2	89,130
H17	611	2,227	22,337	1	14	2,797	21.8	88,058
H18	675	2,378	22,565	1	12	2,885	23.3	86,321
H19	697	2,450	22,879	1	12	2,858	24.3	84,449
H20	639	2,349	23,188	1	14	2,828	22.6	86,509
H21	585	2,299	22,965	1	14	2,664	22.0	83,136
H22	661	2,401	24,585	1	13	2,757	24.0	82,551
H23	631	2,179	23,405	1	13	2,804	22.5	83,455
H24	588	2,133	23,746	1	14	2,759	21.3	86,106
H25	641	2,275	24,529	1	13	2,835	22.6	85,742
H26	683	2,261	24,499	1	13	2,879	23.7	84,279
H27	773	2,490	26,200	1	13	3,068	25.2	88,631
H27/H17	126.5	111.8	117.3	—	—	109.7	—	100.7
H27/H22	116.9	103.7	106.6	—	—	111.3	—	107.4
H27/H26	113.2	110.1	106.9	—	—	106.6	—	105.2

注：野菜産出額は野菜+いも類の合計値

資料：生産農業所得統計

東京都中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H27）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	59,598	4	1	1	1	1	2	5	9	7	8	7	3	1
だいこん	20,189	14	0	0	0	0	6	54	35	27	33	29	3	0
ながいも	9,037	75	72	73	78	75	82	78	73	73	76	83	69	73
トマト	5,908	7	0	0	0	0	0	2	17	21	20	13	2	0
ごぼう	5,628	58	65	70	70	73	44	23	6	17	55	72	73	64
にんじん	5,176	6	0	0	2	3	0	4	44	5	0	7	5	0
ねぎ	4,526	8	0	0	0	0	0	0	3	18	27	22	16	3
かぶ	1,766	11	1	0	0	0	7	18	41	48	32	16	7	4
にんにく	1,534	41	48	48	44	34	24	36	33	47	41	40	46	52
メロン	953	5	0	0	0	0	0	0	5	28	13	0	1	0
キャベツ	936	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0
ばれいしょ	932	1	0	0	0	0	0	0	4	7	2	0	0	0
すいか	849	2	0	0	0	0	0	0	1	7	4	0	0	0
ミニトマト	839	4	0	0	0	0	0	2	11	15	11	6	2	0
きゅうり	753	1	0	0	0	0	0	0	2	4	3	1	0	0
ピーマン	623	3	0	0	0	0	0	0	4	13	12	5	0	0
ブロッコリー	382	1	0	0	0	0	0	13	2	0	4	3	0	0
かぼちゃ	267	1	0	0	0	0	0	0	1	7	1	0	0	0
いんげん	179	4	0	0	0	0	0	1	8	17	20	5	0	0
えだまめ	131	2	0	0	0	0	0	0	2	3	4	1	0	0
ほうれんそう	55	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0
はくさい	55	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
アスパラガス	36	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
スイートコーン	35	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
いちご	32	0	0	0	0	0	0	2	18	9	8	6	0	0
さやえんどう	21	2	0	0	0	0	0	12	15	0	1	1	0	0
レタス	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
なす	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注：野菜合計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実的野菜（メロン・すいか等）を含まない。

大阪市中央卸売市場（本場）における青森県産の入荷量とシェア（H27）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	8,786	3	1	1	1	1	2	4	7	3	3	3	2	1
だいこん	1,922	7	0	0	0	0	6	45	9	4	9	8	7	0
ながいも	1,867	28	24	32	33	28	34	31	28	28	38	32	20	12
にんじん	1,457	6	0	0	0	1	0	10	62	2	0	2	2	0
ごぼう	1,193	19	22	23	24	16	28	7	4	1	12	30	29	15
ばれいしょ	794	2	0	0	0	0	0	0	16	11	1	0	0	0
メロン	485	7	0	0	0	0	0	0	10	28	7	0	0	0
ピーマン	440	8	0	0	0	0	0	2	19	24	24	16	1	0
にんにく	368	97	100	100	100	97	72	97	99	98	100	100	100	100
かぶ	220	16	0	0	0	0	12	84	90	96	78	51	1	0
トマト	182	1	0	0	0	0	0	1	2	2	2	1	0	0
すいか	121	1	0	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0	0
きゅうり	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
えんどう	7	1	0	0	0	0	1	23	12	0	12	4	0	0

注：野菜合計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実的野菜（メロン・すいか等）を含まない。

名古屋市中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H27）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	15,398	4	2	2	2	2	2	5	9	5	5	6	3	2
ながいも	4,394	65	64	64	67	62	64	62	69	66	66	63	70	60
だいこん	4,352	19	0	0	0	0	0	53	53	34	40	44	6	0
ごぼう	3,279	51	54	61	68	77	41	14	0	11	48	66	70	57
にんじん	1,635	7	0	0	0	0	0	16	65	2	0	8	9	0
メークイン	589	13	0	0	0	0	0	0	59	61	22	0	0	0
にんにく	460	52	56	60	51	49	41	41	42	61	52	43	61	61
メロン	388	6	0	0	0	0	0	0	13	32	12	0	0	0
ばれいしょ	310	1	0	0	0	0	0	0	7	11	0	0	0	0
すいか	223	2	0	0	0	0	0	0	0	7	23	48	6	0
かぶ	182	12	0	0	0	0	26	82	70	79	44	21	0	0
ねぎ	70	2	0	0	0	0	0	0	3	5	5	5	0	0
ピーマン	58	1	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0
そらまめ	28	7	0	0	0	0	0	81	47	0			0	0
やまのいも	19	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	88	32
きぬさやえんどう	8	2	0	0	0	0	3	36	14	0	42	4	0	0
グリーンピース	8	2	0	0	0	0	0	32	9	0	63	26	0	0
たらの芽	3	56	75	66	52	22	0							0
うど	2	7	5	13	8	0	0						0	0
やまといも	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
にんにくの芽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0

注：赤色塗り部分■は、H26年には実績があるが、H27年の本県実績が公表されていない月である。
野菜合計は公表のあった数値を補上げたものである。

県内卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H27）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	129,184	61	29	33	35	39	40	64	80	75	78	78	74	50
だいこん	34,853	85	1	3	2	2	74	98	97	96	97	96	90	17
ごぼう	27,727	99	100	100	99	99	98	64	33	94	99	100	100	100
ながいも	18,795	99	99	98	99	99	99	99	99	99	100	99	99	99
にんじん	10,773	69	15	23	48	45	11	53	96	76	82	94	89	28
キャベツ	10,235	52	6	3	1	0	7	62	87	80	78	78	75	12
メロン	4,898	88	0	0	0	0	1	11	92	99	99	42	29	6
すいか	4,215	74	0	—	0	0	0	4	77	96	98	100	67	0
にんにく	3,927	97	98	98	96	92	91	95	98	98	98	98	97	98
ねぎ	2,798	54	23	12	6	10	39	29	43	82	87	90	86	51
トマト	2,566	46	1	0	0	0	7	39	93	94	92	83	49	6
はくさい	2,468	41	2	2	1	0	31	61	61	37	71	80	78	29
きゅうり	1,807	34	0	0	0	1	10	32	77	90	80	41	12	0
ばれいしょ	1,534	25	10	11	14	2	1	0	49	83	46	26	18	4
レタス	936	22	2	1	1	10	24	50	58	65	49	17	1	2
ほうれんそう	915	45	30	37	48	48	49	55	54	50	57	60	40	30
ピーマン	583	37	0	0	0	0	0	7	60	81	82	66	11	1
いちご	521	32	15	14	19	38	53	81	97	81	79	88	27	14
なす	206	12	0	0	0	0	0	0	12	38	45	9	0	0
たまねぎ	86	1	0	0	1	0	0	0	3	2	1	0	0	0
さといも	16	11	0	0	0	0	0	0	0	0	22	32	28	4
その他	8,959	34	13	12	11	17	27	40	51	57	50	44	43	20

注：県内卸売市場（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、南部町、むつ市）7市場における割合である。



品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.ながいも	■											
2.にんにく	■											
3.だいこん						■						
4.にんじん	■ 雪にんじん					■						
5.アスパラガス	■ 促成栽培				■							
6.こかぶ						■						
7.トマト						■						
8.ミニトマト						■						
9.ばれいしょ						■						
10.とうもろこし						■						
11.えだまめ						■						
12.さやいんげん					■							
13.ごぼう	■									■		
14.ねぎ							■					
15.キャベツ						■						
16.きゅうり						■						
17.レタス						■						
18.ピーマン					■							
19.かぼちゃ						■						
20.ほうれんそう						■ 寒締め						
21.食用ぎく							■					
22.メロン						■						
23.すいか						■						
24.いちご	■											

「日本一健康な土づくり運動」

青森県では、県内のすべての農業者が「健康な土づくり」に取り組む「土づくり運動」を展開しています

「健康な土づくり」の

① 土壌診断の実施

- 土の健康診断である「土壌診断」を実施し、適正施肥を推進
- 農協グループを中心とした効率的な土壌診断体制を整備



J A 全農あおもり
土壌分析センター



青森県の土壌診断体制図

※青森市、八戸市、深浦町は土壌診断施設を所有

J A 全農あおもりが
県内全域をカバー！

実施農協・市町村は
分析・診断を継続

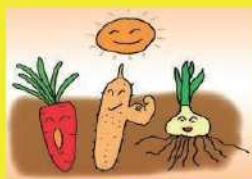
県は診断・生産指導
をバックアップ



- 健康な土づくりにより、作物が丈夫に育ち、品質の良い安全・安心な農産物が消費者に提供されます



食卓が笑顔に



元気な農産物

「活動」展開中！

むことを目指す「日本一健康な



① 主な取組内容

② 土づくりの実践

- 土づくりの基本技術（たい肥の利用など）を励行
- 持続可能な土づくり体制を構築
- 高度な土づくりを実践する「あおり土づくりの匠」の認定



生産者への土づくりの啓発



稲わらのすき込みやたい肥など有機質資源の有効利用



作業組織等の育成やたい肥センターの活用

③ 栽培管理、収穫

- ほ場での栽培管理～収穫作業〈例：ながいも〉



植付



栽培管理



収穫

青森「冬の旬」の野菜たち

○冬のハウス栽培では、ほうれんそうやこまつ菜の「寒締め栽培」やいちごなどの生産が行われています。

○雪の下から収穫するにんじんもあります。

○寒さの中でゆっくり育つので栄養価が高い野菜になります。

○冬は病害虫の発生が少なく、ほとんど農薬を使わずに済むため、安全・安心です。





たらの芽

ほうれんそう

○寒さを利用した加工品も作られています。

ごぼう

アスパラガス

○雪を利用した取組も行われています。

ほうれんそう

ごぼう

いちご

ちご

ねぎ

うど

ほうれんそう

ず



この印刷物は、1,500部作成し、印刷経費は1部当たり48.6円です。